

モノゴトを動かす人材の必要性を痛感

総務厚生・産業建設常任委員会合同行政視察研修報告

今回の行政視察研修では、10月17日から19日にかけて秋田県の3つの町を訪問しました。それぞれ町の魅力ある取り組みや人々に触れることができました。その内容を紹介します。

五城目町まちづくり課 地域活性化支援センター

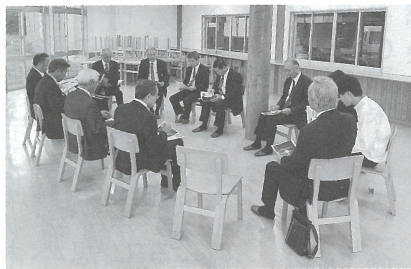
研修の目的

五城目町の「しごとづくり、移住定住対策、少子化対策」を学ぶことです。

どんな対策を

人口の流出を防ぐには働く場所と仕事づくりが重要という観点から、企業立地対策を最重要施策と位置付け、若者の移住促進対策を進めています。

る第一歩となったのは、廃校舎をリニューアールした五城目町地域活性化支援センターの開設でした。この施設は、いわゆるシェアオフィスの中心ですが、単なる貸し部屋でなく、地域活性化のシンボリック施設として発展し、そこにはキーマン(※)の存在がありました。東京都千代田区との姉妹都市交流事業によるご縁から、取り組みの



▲入居者から話を聞く

※注 キーマン
特に大きな影響を及ぼす「鍵となる人物」のこと。

キーマンとなる方が入居、移住したのをきっかけに、若い世代の起業者が次々と集まり、そこから様々な新しいチャレンジが始まったのです。また、五城目町の地域おこし協力隊の募集にあたっては、できる仕事を探すのではなく

自ら仕事を持つてくる(起こす)人材に限定しており、その活動は地方創生の優良事例に選ばれています。

このような取り組みを企業や住民、行政が連携し実施した結果、センターには11社が入居しています。

NPO法人八峰町観光協会

研修の目的

観光協会の自立の可能性を学ぶことです。

月山朝日観光協会の法人化をふまえ、先行事例の観光協会の取り組みを今後の町の観光のあり方に生かせるのではないかと考えました。

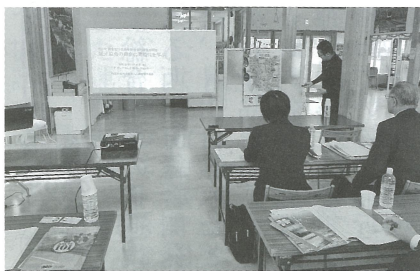
どんな対策を

以前の観光は、海や山の観光施設、直売所、保養施設などの施設整備やイベントに多くの資金を投入してきました。それが、見る観光

から体験する観光、学ぶ観光へと大きく変化している社会情勢をふまえ、観光協会としてどう対応すべきかを考えました。

その後、自主財源の確保のため、町の公園の指定管理事業の拡大に向けた体制づくりを行い、平成24年に事務所を町内の公園施設に移し、26年からその公園の指定管理者になりました。

現在の事業内容としては、観光誘客、公園



▲観光協会が管理する施設内で説明を聞く

社会福祉法人

藤里町社会福祉協議会



▲事務局長を囲んで記念撮影

研修の目的

地域とともに歩む社会福祉協議会のあり方を学ぶことです。特に、5年間で113人のうち86人の就業を実現した先進的な「引きこもり支援」の取り組みは全国的に注目されています。

藤里町の現状

秋田県の最北端に位置し、世界自然遺産の白神山地の麓の町です。平成31年4月1日現在の人口は3228人、世帯数は1359世帯、高齢化率は46・87パーセントに及びます。

どんな対策を

障がい者でも、高齢者でも、引きこもり者でも、デイサービス利

用者でも、施設入所者でも、町民すべてが生涯現役を目指す町にするため、社会福祉協議会として、人づくりや仕事づくり、若者支援などの事業に取り組み、大きな成果を上げています。

福祉の常識の枠を拡張、従来の「弱者支援」から弱者と呼ばれてきた人々がまちづくりに参加できるよう支

援する活動への転換を「藤里方式」として提案しています。そこには、しっかりとした理念のもとに職員の意識改革を図りながら取り組みを具体化して「頼りになる社協」をけん引してきたキーマンの存在がありました。

まとめと感想

今回の視察研修を通して感じたのは、具体的な計画や事業を積極的に推し進め、やり遂げようとするキーマンの存在でした。そのキーマンのまわりに思いを同じくする人たちが集まり、大きな力になっていくことを強く感じました。